

政府のコロナ対策における政策で、感心できるものが一つもないのです。ダイヤモンドプリンセス号では、感染者と非感染者を長期間同じ船内にとどめ置き感染者を増やした挙句、下船させて保護観察することなく家に帰してしまう。感染源である中国からの入国制限も遅すぎて、これでは日本国中に感染が広がるのは避けられないと絶望しました。そして感染予防対策にしても、PCR検査は保健所の管轄ということで検査数は極端に少なく、1%以下の感染者がだれか分からないために99%の非感染者の動きを止めるという自粛政策。経済的にも精神衛生上にもマイナスとなることを平気でお願ひする。なおかつ休業を要請した企業への補助金支給の遅いこと甚だしい。挙句の果て、感染予防に効果の低い布マスクを全国民に配布するという。たった2枚の布マスクを配布するのにどれだけの配送料がかかるねん。国会でも布マスクをしているのは安倍総理だけという、裸の王様ならぬ マスクの王様状態。ほんまに有事に弱い、想像力の欠乏した政治家たち。幕末の黒船来襲における幕府のようであります。

コロナ禍となって2年近く何をしてくれたのでしょうか。今回の衆議院の解散にあたって、いつからの慣習か知りませんが、議長が解散を宣言すると全員が万歳三唱をする習わし。そんな意味のない習わしいつまでやっとなねん。色々なことを変えていかなければならない時代に、何も変えられない人達という証明でありましょ。

こんな政治ばかり見ているので、政治に期待できなくなっているのですが、その中でも最近感心しているのは、卒塾生で亀山市議員になった今岡翔平君と草川卓也君の活躍であります。毎日のようにSNSに情報や資料をアップし、しかもそれが私たちの知りたい、求めている情報なのであります。この度のコロナ禍における草川君の活動は、子育て世代の立場として、こうあってほしいという要望と、彼の考えが合致していて、市民の立場に立った政治であると感じました。当然のことですが、亀山市民のための政治をするのが、亀山市議員の目的であります。彼は毎日そのことを思い続けているからこそ、行動に表れるのでしょ。

「子 日わく、人、遠き ^{おもんばかり} 慮 無ければ 必ず近き ^{うれい} 憂有り」

孔子が言った。われわれ人間において、時間的にも、空間的にも、遠く広く、しかも深い気配りをしなかったなら、必ずや、身近に憂いごとが起こるものである。

連絡事項

11月3日(水)、23日(火)の祝日 両日とも全クラス休塾

算数・数学検定

検定日 11月13日(土)

10:00~

